

二〇一四年度 入学試験問題

法学部A方式Ⅰ日程・文学部A方式Ⅱ日程・経営学部A方式Ⅱ日程

一 限 国 語 (60分)

〈注意事項〉

- 一 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
- 二 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 三 マークシート解答方法については下記の注意事項を読みなさい。

マークシート解答方法についての注意

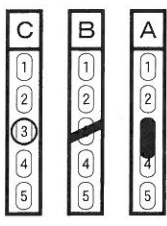
マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって、解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどは使用しないこと)。

一 記入例 解答を3にマークする場合。



(一) 正しいマークの例

(二) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

二 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。

三 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。

四 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

〔二〕 つぎの各文のカタカナを漢字に直して、解答欄に記せ。

- 1 ブツダンに向かって手を合わせる。
- 2 雨の中、登山して、体力をショウモウする。
- 3 都市開発によって、町並みがすっかりヘンボウした。
- 4 会計係となり、スイトウボを管理する。

〔二〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

人は成長していく過程で、「自分の世界」¹を作っていくかなければならない。

この考え方については、ほとんどのの方が賛同されるだろう。しかし、「自分の世界」を子供が作っていくためには、「嘘」をついたり「秘密」を持つたりすることが不可欠で、親や教師はある程度それを容認しなければならぬ、となると、大いに抵抗を感じる方もいるかもしれない。

しかし、「嘘」も「秘密」も存在せず、「反抗」も認められないような子供は、「自分の世界」を形成し損なっている状態にあると見て間違いない。子供が「自分の世界」を作っていくことは、いわゆる「自立」の必須条件である。しかし、もし「子供に自立はして欲しいが、嘘をついたり秘密を持つたりしないで欲しい」と考えるのだとしたら、それは虫の良い話で、達成不可能なダブルバインド（二重拘束）的欲望を子供に向けていることになる。

少子化に加え、安全管理等の要請が厳しくなった事情もあって、母親たちを中心とする大人たちは、その有り余るエネルギーと時間を、わが子に向けることが多くなった。子供たちへの関心を深めること自体は良いにしても、実際のところは、監視や干渉が増える結果となってしまった。これが、子供たちが「自分の世界」を作っていくことを、大いに妨げたのである。

過干渉な子供へのかかわりをする親は、子供の中に「反抗」の要素が芽生えることを警戒し、その兆候が認められるとすぐに、その芽を摘み取ってしまう。その「反抗」の兆候の代表が、この「嘘」と「秘密」なのだ。

「隠し事の一切ない仲の良い親子」というものが理想的な親子像のように思い違いされている向きもあるが、ある年齢を過ぎてもそのような距離の近い親子関係が続いているとしたら、それは憂慮すべき状態である。

そのように「嘘」も「秘密」も禁じられて育てられた子供は、ある種の洗脳を施されたような状態にある。親の価値観や好みを見事に取り、その範囲を逸脱しない好奇心だけを選択的に発動させ、「良い子」を演じたまま大人になる。

しかし、それが破綻する日は必ずやってくる。

すべての行動が偽のモチベーションによっているがために、あるとき「ガス欠」状態に陥ってしまい、動けなくなるのである。そして、本来ならば思春期や青年期に直面すべきだった「なぜ生きていかなければならないのか？」「なぜ面倒な仕事を続けていかなければならないのか？」等の問いと遅ればせながらも向き合うことになり、「好きなもの嫌いなものがわからない」²「したいことが見つからない」と、当惑してしまうのだ。

近年俗に「新型うつ病」^{*}と呼ばれている病態の根本には、このような病理が潜んでいることがとても多い。行動面では、ある時急に「学校に行くこと」や「仕事に行くこと」ができなくなるわけだが、これは、いくら抗うつ薬でドーピングを試みても、何しろ病理の中心が「遅れてやってきた反抗期」とでも言うべきものなのだから、あまり効果は期待できないことが多い。

大切なのは、この「不適応」状態が、本人の心理的成長にとって欠かせぬ「反抗期」的な意味があるということ、治療者も本人も認識することである。しかし困ったことに、このような本質的認識など X だにされぬまま、ただ漫然と抗うつ薬による薬物療法や浅薄な認知行動療法等が行われるのみで、症状の再燃を繰り返すケースがあとを絶たない。

おそらく多くの治療者たちも、「良い子」で育ってきたまま現在の職についているため、自らの抱える病理と同質の病理については、原理的に扱えないのであろう。³

このような治療者たちは、あくまで受動的に勉強してきた知識の枠を出ることができず、クライアント一人一人を唯一性を持った人間として「自分の眼で診る」こともできず、「マニュアル思考」でしか治療ができない。近年、アメリカ主導のマニユアル診断学が世界的スタンダードになり、医学教育の内容もかなり「マニュアル思考」に覆い尽くされてしまったことも災いし、懐疑的精神と真の思考力や観察力を備えた治療者が育ちにくくなってしまっている。

このように、家庭においてのみならず学校でも職場でも、そして行き詰まって訪れる医療機関においてさえ「嘘」や「秘密」が許容されない状況にあるのだ。

ひとたび学校というものに入ってしまったら、定年を迎えるまで休みなく走り続けさせられることになる社会のシステムも、

以前にも増して隙間のないものになってしまった。以前は、それでも唯一、サボって好き勝手な過ごし方が許されていた大学というところでさえ、最近ではギチギチに出席をチェックし、ひどいところでは、学生が出席していないと学校が親に電話を入れることまでするらしい。

このように、隙間なく親や学校から徹底的な管理や支配を受け続けるような構造では、子供たちが真の成長などできようはずもない。そのような環境下では決して、人間らしく「考える」力など養成されないのは当然である。

結果として、いつもあらゆることが不安で、それゆえ必死で情報をかき集めることに翻弄されるような人間が出来上がることになる。しかも、彼らには情報の真偽を吟味する力がないので、それを鵜呑みにして、いつまでも不完全な情報に振り回され続けることになる。

ラッセルは、彼の教育論の「真実を語ること」⁴という章で、「思考の中でも真実を語ること」の大切さを述べているが、しかし、それに続いて次のように述べている。

……私は、最初無意識的に自分をあざむいているうちに、やがて自分は道徳的で真実を語っているのだと思ひこむよう
な人よりも、自分が何をしているかを十分意識しながら嘘をつく人のほうが、むしろ好きである。事実、誠実に考える人
ならだれ一人として、真実を語らないのはいつも悪いことだ、などと信じはしない。嘘はつねに悪いと考えている人びと
は、この見解を補強するために、いろいろと詭弁を弄したり、あいまいなことを言って人を惑わす練習をかなり積まなけ
ればならない。そうすることによって、彼らは、自分が嘘をついていることを認めないままに人を欺くのである。……

『ラッセル 教育論』安藤貞雄訳

つまり、「思考の中でも真実を語る」こととは、内的に「誠実に考える」ことであり、〃自分は嘘をつかない人間である〃などと自己欺瞞を行ったり、「嘘はつねに悪い」などといった「美しい嘘」を教えるような偽善者にはならないということである。

「嘘」を平然とつく人間も恐ろしいが、最も恐ろしいのは、自分の中に避けがたく生じてくる「嘘」について自覚しない人間だ。「嘘」も「秘密」も持つことのできない人間は、公明正大ではあるかもしれないが、影も奥行きもない、薄っぺらで色気のない存在である。人間が人間らしく在るとするのは、闇を内包して生きるということではないのか。

闇とは「嘘」であり「秘密」であり、「悪」のことである。

人間の内部から完全に「悪」が排除されるべきだと考えたとしたら、人は不幸になる以外にないだろう。つまり、自己の内部に「悪」などないと自己欺瞞する偽善者に墮するか、あるいは、自らの内部に排除しきれない「悪」を認めて、人知れず自己嫌悪し続けるかのいずれかしかないのだから。

ここで悪人正機説として有名な「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや」という親鸞聖人の言葉を思い起こす必要があるだろう。仏の道に帰依し、すでに八十代の老境に在った親鸞が自らの内面を見つめた時、そこに拭いきれない煩惱、すなわち「悪」の存在があった。これを率直に認め、「悪人」として自らを見たところからこの言葉は発せられたのだ。

当たり前の話だが、善／悪の二元論がなければ、「悪」という概念はなかった。つまり、「道徳」によって善悪の切り分けが行われたがゆえに、二次的に「悪」が生じたのだ。

「歴史は夜作られる」という言葉があるが、「自分の世界」というものも、実は闇の中で作り出されていくものである。「闇」や「隙間」をなくすような教育は、「自分の世界」が形成されない人間を作り出すのみならず、むしろ心の最奥部に、その反動として病的な「闇」を生じさせてしまうこともある。

たとえば、無差別殺人等の一見不可解な犯罪も、このような「闇」を禁止する環境の中で逆説的に生じてしまった病的な「闇」が根本原因になっているとも考えられる。よく事後のインタビューで、「目立たない大人しい子だったのに、どうしてあんなことをしてしまったんでしょう？」という発言を耳にするが、「目立たない大人しい子」であったことこそがむしろ問題だったのである。

われわれはそろそろ、「闇」のない人間を育てることができはるはずだ、などといった有りもしない「美しい嘘」から目覚めなけ

ればならない。

(泉谷閑示『反教育論——猿の思考から超猿の思考へ』より。文章を一部改変した)

【注】 *新型うつ病

何らかのきっかけをもって深い絶望感や不安が湧いてくる一種の気分障害を一般に「うつ病」と呼ぶが、「新型うつ病」とは、本人にとって都合の悪いことに直面すると気分が沈み込んだ状態が続くものの、よいことや楽しい出来事があると、それまでの不調がウソのようにたちまち元気になるというような症状を指す。

問一 傍線部1「自分の世界」の説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 誰からも干渉されることのない、自己の内部に存在する独自の世界であり、それには親や教師に対する「嘘」や「秘密」はもちろんのこと、「悪」や病的な「闇」さえも含み込まれると筆者は考えている。

イ 大人から監視される心配のない内的世界であり、それを構築するためには、「嘘」や「秘密」を正当化するための反抗期の存在が必要であると筆者は考えている。

ウ 他者と自己を区別するような、いわば「個性」とでもいうべきものであり、過干渉な親さえいなければ、思春期のうちに確立されてしかるべきものと筆者は考えている。

エ 今まで多くのものを親と共有していた子供が、その共有を断ち切り、親から自立した証として構築する独自の世界であり、その構築のためには、時には隠し事をする必要だと筆者は考えている。

オ 親や教師に普段見せている「自分」とは異なる「内なる自分」であるが、光と陰の二分法でいえば、決して陰のような存在などではなく、両者の中間に位置するものと筆者は考えている。

問二 傍線部2「したいことが見つからない」とあるが、若者がこのような状態に陥ってしまうのはなぜだと筆者は考えているか。その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 親のために「良い子」を演じたまま大人になったため、いったんそれが破綻してしまうと、もう二度と元の「良い子」に戻ることができずに進退きわまつて、思考停止状態に陥ってしまうから。

イ いわゆる「新型うつ病」にかかってしまうと、何事にもモチベーションが維持できない無気力状態になってしまうので、自分の好きなことについてすら考えられない状態に陥ってしまうから。

ウ そもそも「なぜ面倒な仕事を続けていかなければならないのか」という初歩的な問題すら解決できていないので、それよりも高度で複雑な問題については到底考えられないから。

エ 親や教師に気に入ってもらえる「良い子」を演じることはかり考えてきたため、急に何がしたいのかと問われても親からの干渉が気になつて素直に言い出せなくなっているから。

オ 親の考えや希望などを察知し、その枠内でしか自分のすることを決めた経験がないため、その枠がなくなってしまうと、自分がやりたいことすら決められなくなってしまうから。

問三 空欄 X に入る語として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 思慮 イ 回顧 ウ 一顧 エ 熟考 オ 考証

問四 傍線部3「自らの抱える病理と同質の病理」とあるが、「新型うつ病」とされる人たちと治療者の両者が抱えている共通の

問題は何か。最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 初めて経験する反抗期に戸惑い、当惑しているということ。

イ 「良い子」から脱却できずに苦しんでいるということ。

ウ 自らの思考力や判断力が十分に育っていないということ。

エ 偽のモチベーションに違和感を覚えているということ。

オ 偽のモチベーションすら失って無気力になっているということ。

問五 傍線部4「彼の教育論」を筆者はどう読みとっているか。その説明として適切でないものをつぎの中から一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 真実を語るよう努力することは必要だが、やむを得ず嘘をつく場合もあることは知っておかねばならない。

イ 故意に他者を騙すことだけは避けねばならないが、述べた内容が結果的に嘘になってしまうのは仕方ない。

ウ 自分が嘘を語ることもあるという可能性は素直に認め、その自覚を持ちながら語ることが大切である。

エ 自分の中で避けがたく生じた嘘から目を背け、自分にまで嘘をつけて他者を欺くことは慎まねばならない。

オ 何度も嘘をつくうちに、自分が嘘をついていることすら忘れてしまうようなことだけは避けねばならない。

問六 傍線部5「このような「闇」を禁止する環境」とあるが、ここで禁止される「闇」とはどのような役割を果たす闇か。つぎの形式に従って二十字以内でまとめ、解答欄に記せ。ただし、記号や読点も一字と数える。

闇

問七 本文の内容を解説した文として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア まず、「嘘」や「秘密」を一方的に悪いと決めつけるような昨今の教育は一種の洗脳教育であると批判し、つぎにラッセルや親鸞の例を挙げながら、公明正大だけが取り柄の人間ではなく、「美しい嘘」も含めて、上手に嘘をつくこともできる柔軟な人間を育成すべきであるという論を展開している。

イ まず、昨今の若者が「自分の世界」をうまく作れておらず、「偽のモチベーション」しか持っていないことを非難してから、その元凶は「美しい嘘」に基づいた過干渉な親たちの教育であると主張するために、ラッセルと親鸞の思想を対比しながら論を展開している。

ウ 冒頭では「嘘」や「秘密」が決して一方的に悪いものではなく、むしろある程度は容認すべきだという主張を行った上で、「新型うつ病」やラッセル、親鸞の話を引き合いに出しながら、嘘は絶対的に悪であると子供を洗脳するような教育こそが問題であると主張している。

エ 昨今「新型うつ病」になる若者が急増しているという現実を指摘した上で、その原因が「隠し事の一切ない仲の良い親子」などという幻想を熱心に刷り込もうとする過干渉な大人たちにあると喝破し、最後にラッセルや親鸞も批判している。「美しい嘘」を教える洗脳教育はもうやめるべきだと主張している。

オ 近年の若者に特徴的な「新型うつ病」の原因が、家庭や学校で「嘘」や「秘密」が禁じられていることにあると指摘した上で、そのうつ病を引き起こした凶悪犯罪やラッセルの思想を紹介しながら、最終的には思春期の若者達が「闇」や「隙間」を持つことをある程度は認めるべきだと論じている。

〔三〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

1 科学研究がもたらした気候変化の予測やそのリスクの認識は国や地域によって異なる。二〇〇六年一〇―十一月に行われた市場調査会社エーシーニールセンのオンライン調査によると、地球温暖化問題が非常に深刻と考えている人は世界平均で五七%、やや深刻と考えている人は三四%であった。欧州は世界平均とほぼ同じであるのに対して、北米地域の関心は、他地域と比べて低く、世界平均を下回り、特に米国では、温暖化問題が非常に深刻な問題だと考えている人の割合は四二%、温暖化自体を知らないと答えた人の割合は世界平均の二倍以上で一三%だった。中国での問題の認知度(九八%)は高いが、非常に深刻だと考えている人は五九%、日本では八五%が温暖化問題を知っており、七〇%が深刻な問題であると答えている。

〔a〕 問題に対するこうした認識の違いは、科学的知見の認知度や教育やメディア、国内政治の力学など様々な要因によるものと考えられるが、温暖化問題に伴う不確実性がこうした認識の違いに影響を及ぼす。観測データなどを基に、過去の気候が再現できる精度の高いシミュレーションモデルが構築され、温室効果ガスの排出によって気候がどのように反応するか、どのような悪影響が生じるかの予測がなされているが、悪影響のリスクがいつどのような形で顕在化するかという予測にはなお不確かさが残る。科学的証拠が十分に存在する場合には、科学的証拠をよりどころに政策決定が正当化されるが、リスクの評価に不確実性が伴うと、こうしたリスクの顕在化の未然防止にどれだけの費用を負担し、どこまで許容するかの政策決定は、費用を負担して対策をとる社会の価値判断に大きく委ねられることになる。社会が問題をどのように認識するかが不確実性を伴うリスクに関する政策決定に少なからぬ影響を及ぼす。社会の問題認識と政策決定はこのように関連し合うのである。

〔b〕 これは国際的な政策決定の場面においても同様である。温暖化問題の、排出の場所を問わず、世界全体の排出量が問題となる性質からすれば、世界全体の排出量を管理するための国家間の政策協調が不可欠である。国は同意なしには拘束されないため、国際合意の水準は、その合意に参加するすべての国が合意可能な最大公約数の水準となる。問題に対する社会の認識の度合いは、国を介して国際合意⇨国際的政策協調の水準を決めるのである。

c 温暖化問題の中心的論点の一つは、温暖化対策の費用や将来顕在化しうる温暖化の悪影響に対処する費用を誰が負担するか、という費用負担(責任)問題である。公正な費用負担はいかなるものかは、化石燃料の消費、温室効果ガスの排出を通じて構築されてきた社会システムをどう理解するか、植民地時代を経て発展の格差がなお残る国際社会においてどのような負担配分が公正といえるのか、といった、論じる者の世界認識、歴史認識と切り離せない。

d 地球環境問題に対処する費用負担の指針として、環境条約に盛り込まれ、またしばしば援用される「共通^{*}に有しているが差異のある責任」は、問題発生への寄与度(責任基準)と問題対処能力(能力基準)に応じた責任(費用負担)配分を示唆する。

²* 気候変動枠組条約交渉において、途上国は、温暖化問題に対して先進国に主要な責任があるとの論(先進国主要責任論)を根拠に先進国が温暖化対策を先導すべきであると強く主張した。先進国主要責任論にはくみしなかつたが、途上国より相対的に高い能力を有することを理由に、先進国先導論そのものは先進国からも支持を受け、枠組条約第三条の定める条約の実施を指導する原則に反映された。当時、世界の人口の二〇%ほどを占める先進国が七〇%以上の温室効果ガスを排出しており、先進国先導論は、条約交渉において相当の説得力を持つものとして受け止められたのであった。しかし、今や米国を抜き、世界最大の排出国となった中国をはじめとする新興国の排出量が急増し、また、一人当たりGDPが先進国を超えるほどの経済力を持つ途上国が登場するようになった。こうした変化の中で、³誰がどれほど費用を負担するのかが改めて問題となっている。

e 例えば、責任基準に基づいて、現在の温室効果ガス排出量に応じて費用負担を配分すると新興国は相応の責任を負うことになる。それに対して、新興国は「歴史的排出量」⁴に基づく責任配分を主張する。過去の温室効果ガスの排出によって先進国の現在の社会基盤が構築されているので、そこから裨益⁴している分の責任を負うべきというのが根拠の一つである。果たして、先進国は、過去の排出量にどこまで責任を負うのか、温室効果ガスの排出が損害を生じさせることが明らかでなかった時の排出量の責任も負うのか。他方で、人口の多い途上国は、国単位の排出量を基準にして責任を配分するのは公平性を欠くと主張する。一人当たりの排出量を均一にすることを基準に国の削減目標を設定し、削減の責任を配分するのは、人の平等の観念に合致し、わかりやすい。しかし、気象条件やエネルギー事情などの違いを捨象した均一化基準が公正な配分の基準と言えるかと

も問いうる。

加えて、経済のグローバル化は責任の配分の議論を一層複雑にする。中国をはじめとする新興国の排出量が急増しているのは確かだが、新興国は、資源投入、輸出依存型の経済で、先進国向けの財の生産、供給源となることで経済発展を遂げてきた。近年の研究は、こうした発展の構造により、新興国の排出量の相当部分を、新興国で生産されるが先進国で消費される財の生産に由来する排出量が占めることを示している。果たして、先進国が消費する財の生産に伴う排出量は、生産して輸出する途上国の排出量なのか、それとも財を消費してその便益を受けている先進国の排出量なのか。途上国が A している先進国の排出量を削減する費用は誰が負担すべきだろうか。

温暖化問題の特質にてらして、世界の排出量を管理するための国際的なルールや制度が必要である。しかし、多様な世界認識、歴史認識を持つ国々の中で「公正」と認識される政策・制度の合意に至ることはたやすくはない。最新の科学的知見に依拠しながら、異なる問題認識と社会の価値観を理解し、地球規模の問題に対処するための共通の問題認識と理解を積みあげていく粘り強い努力が必要だろう。温暖化問題の特質からすれば、将来の世代が被るかもしれない悪影響のリスクを考慮するという、通常の価値判断の時間枠を超えて問題を認識する力も私たちに求められている。

(高村ゆかり「地球温暖化問題をどう見るか——リスク、責任、新たなパラダイム」より。文章を一部改変した)

【注】

* 温室効果ガス 地球温暖化をもたらすガス。大気に含まれる二酸化炭素・メタンなどの気体の総称。

* 共通に有しているが差異のある責任

地球環境問題に関する責任は先進国と途上国が共通して負うが、両者の責任の程度に差を認めるとする考え。一九九二年、リオ・デ・ジャネイロで開かれた国連環境開発会議でまとめられた「環境と開発に関するリオ宣言」に明示された。

* 気候変動枠組条約

人類の活動によって気候システムに危険な影響をもたらされない水準で、大気中の温室効果ガス濃度の安定化を達成することを目的とした条約。一九九二年に採択・署名され、九四年に発効した。

問一 傍線部1「科学研究がもたらした気候変化の予測やそのリスクの認識は国や地域によって異なる」とあるが、これについて、つぎの(一)(二)の問いに答えよ。

(一) 傍線部1の要因として、筆者が重視しているのはどのような点か。最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 温暖化とその悪影響が生みだすリスクに対する認識の度合いが、それぞれの国や地域の政府がどれだけ責任をもつて、教育やメディア、政策を通じて、この問題を人々に理解させるかによっている点。

イ 観測データにもとづくシミュレーションモデルなどから推測した結果、温暖化による悪影響が生みだすリスクの規模や顕在化する時期が、それぞれの国や地域の地理的環境に大きく左右されることがわかった点。

ウ それぞれの国や地域における科学研究の水準に違いがあるため、観測データなどをもととするシミュレーションモデルによる温暖化とその悪影響の予測には、国や地域ごとに精度の差があり、説得力に違いがある点。

エ 温暖化による悪影響について、現代の科学研究がどれほど精度の高い予測を行っても、温暖化問題には常に不確実性が伴っているため、国や地域によっては政府がその予測を信用しようとしていない点。

オ 温暖化の悪影響によるリスクがいつ、どのような姿をとって我々の目の前にあらわれるかまでを完全には明らかにできないことが、それぞれの国や地域の人々の価値判断に大きな影響を与えている点。

(二) 傍線部1の事象が引き起こした問題を説明したものととして、最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 温暖化のリスクに対する認識が低い国は、温暖化防止に向けた政策をとらないだけでなく、国際的な政策決定の場でも合意の水準を引き下げてきたため、すでに温暖化のリスクが世界のいたるところで顕在化してしまっている。
- イ 社会における温暖化のリスクに対する認識の差が、リスクの顕在化の未然防止に向けた経済的負担の違いを決定するので、リスク認識の低い国が国際的な政策決定の場で批判にさらされることが多くなった。
- ウ リスク評価に不確実性が伴うことにより、温暖化に対する危機意識はどの国や地域でも総じて低いことに加え、リスクの顕在化の未然防止に対する経済負担は忌避されるので、国際的な合意が形骸化しつつある。
- エ 社会における温暖化のリスクに対する認識が、その国や地域の政策内容を左右するほか、国際的な政策決定をする場でも、参加国の中で最もリスク認識が低い国に合意の水準を合わせなければならない状況にある。
- オ 温暖化のリスクへの社会の認識が低い国や地域では、政府がリスクの顕在化の未然防止に向けた政策の推進に消極的であるため、国際社会はどのような手段を用いても、それらに対策を実行させることができない。

問二 傍線部2「気候変動枠組条約交渉」における温暖化対策をめぐる議論の推移を説明したものととして、最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 先進国は途上国が唱えた先進国主要責任論は容認しなかったものの、自らの問題対処能力の高さを認めたことにより、先進国が温暖化対策を先導すべきだという考えで交渉はまとまった。

イ 先進国は自らの問題対処能力の高さを認めなかったものの、途上国が唱えた先進国主要責任論を認めたため、協議は先進国が温暖化対策を先導すべきだという方向で落ち着いていた。

ウ 先進国は途上国にこそ主要な責任があるという認識をもっていたが、途上国の問題処理能力が相対的に低かったことから、交渉は先進国が温暖化対策を先導するという内容で妥結した。

エ 問題対処能力の高さを根拠に、途上国は先進国に温暖化対策を先導すべきだと求めたが、逆に、先進国は各国に問題発生への寄与度にもとづく責任配分を求め、途上国との合意を図った。

オ 先進国は、世界の人口の二〇%を占めるにすぎない先進国が、世界の七〇%もの温室効果ガスを排出している事実を認めたくはなかったが、最後にはその責任を自覚し、先進国主要責任論を受け入れた。

問三 傍線部3「誰がどれほど費用を負担するのか」とあるが、これについて、つぎの(一)(二)の問いに答えよ。

(一) 傍線部3の議論がかかえる問題を説明したものとして、最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 温室効果ガスの排出をめぐり、現在の排出量を基準としたい先進国と過去の排出量も基準に含めたい新興国との間で考えに隔たりがあるうえ、国単位の排出量を基準とするか、一人あたりの排出量を基準とするかについても両者に隔たりがあつて、費用負担に関する議論そのものを始めることができない。

イ 温室効果ガスの排出をめぐり、国単位の現在の排出量を基準としたい先進国と、「歴史的排出量」を加味し、さらに一人あたりの排出量を基準としたい新興国、途上国の間で議論がつづけられてきたが、経済のグローバル化によつて排出量をめぐる考え方そのものが変わり、これまでの費用負担をめぐる議論が無駄になつてしまった。

ウ 温室効果ガスの排出をめぐり、過去の排出量にさかのぼつて責任を配分するとともに、一人あたりの排出量を均一にして削減目標を設定することが現状では最も理想的であるのに、責任の起点が明確にしづらいことや個別の条件が異なること、さらには経済のグローバル化などを理由に反対する国があり、各国の意見の集約ができない状況にある。

エ 温室効果ガスの排出をめぐり、歴史的にさかのぼろうとしてもどこまでの排出に責任をもつか確定しにくく、一人あたりの排出量を基準にするにしても背景となる条件が異なるうえ、経済のグローバル化がどの国に帰属する排出なのかをわかりにくいものとしており、費用負担に関する議論が複雑になつている。

オ 温室効果ガスの排出をめぐり、その責任の配分をどうするか議論しようとしても、新興国や途上国の間には植民地時代の状況や気象条件、エネルギー事情、先進国向けの財の生産量などに違いがあるため、これらの問題を捨象しないかぎり、公正な議論がなかなかできない状況にある。

(二) 傍線部3の問題を解決するためには、今後どのように議論を進めてゆくべきだと筆者は考えているか。六十字以内
でまとめ、解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

問四 傍線部4「裨益」の本文における意味として、最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 恩恵を受けていること
- イ 責任を免れること
- ウ 費用をかけること
- エ 不利益をこうむっていること
- オ ものが倍増すること

問五 空欄 A にあてはまる語として、最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 作り置き
- イ たらい回し
- ウ 肩代わり
- エ 丸投げ
- オ 横流し

問六 右の文章を内容上、大きく二つに分けるとしたら、後半は段落 a ~ e のうち、どこから始まるか。最も適切な段落記号
を選び、解答欄の記号をマークせよ。

〔四〕 つぎの文章は、この物語の主人公である浜松中納言が、唐に滞在している時の出来事を記したものである。これを読んで、後の問いに答えよ。

八月十日余日、中納言のおはする高層のまへの前裁、ⁱ ことにおもしろく見渡せば、夕べ、ふるさとおほし出でて、簾垂^{すだれ}を捲きあげて、つくづくとながめ臥し給へれば、人々もみな都を思ひ出でて、さまざま言ひあへる中に、心ばせある人、かく言ふ。

虫の音も花のほひも風の音も見し世の秋に変らざりけり

と言ひ出でたる返りごとを、集まりてうそぶくめれど、^b ややほど経ぬれば、中納言うちほほゑみ給ひて、「げにさることなれど、おどされたることぞ多^{*}」^c とのたまはするも、^c すすろにはづかし。

置く露も霧立つ空も鹿の音も雲居の雁も変らざりけり

とながめ給ふを、集まりてこれのみ誦^{ずん}じて、^① 言ひ出でずなりぬ。

十月一日、ほかよりも紅葉のさかりすぐれたる、内裏の西に、洞庭^{どうてい}といへるところに、御門行幸^{みかどみゆき}し給ひ、中納言もつかうまつり給へるを見てまつらむと、遠き国の人々さへ残りなくつどひて、^② かたちありさま見るに、肝消えて思はぬなく、及ぶまじきは病ひになりぬべく、^③ われはと思ふ人々ぞ、かくておはするほどだにも、見え知られたてまつらばや、^④ と心をかけて思はぬはなかりける。皇子たち大臣公卿集まりて、文作り遊びをし給ふにも、この中納言にしくものなく、めづらかに、いみじかりける世の人かな、と御門をはじめたてまつりて、あるかぎりの人、めづらしがることかぎりもなし。

〔浜松中納言物語〕より

【注】 * おどされたる 「びつくりさせられる」という意味。

* 肝消えて たいへんな驚きで適切な判断や対応ができない状態。

問一 傍線部「前栽」の読み方をひらがなで解答欄に記せ。

問二 傍線部「a」心ばせある「b」うそぶく「c」すずろに」の本文中の意味として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

- a 「心ばせある」
ア 義侠心のある イ 虚栄心のある ウ 向学心のある エ 功名心のある オ 風流心のある
- b 「うそぶく」
ア あざむく イ 口ずさむ ウ ささやく エ 相談する オ とぼける
- c 「すずろに」
ア 否応なく イ 落ち着かなく ウ 所在なく エ 何となく オ 不甲斐なく

問三 傍線部「さること」とは、どのような内容を指すか。三十字以内でまとめ、解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

問四 空欄 A に入る最も適切な活用語尾をつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア く イ し ウ けれ エ かり オ かる カ かれ

問五 傍線部①「え」②「まじき」③「しく」④「めづらかに」の品詞として、最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

- | | | | | |
|------|-------|-------|--------|-------|
| ア 名詞 | イ 動詞 | ウ 形容詞 | エ 形容動詞 | オ 連体詞 |
| カ 副詞 | キ 接続詞 | ク 感動詞 | ケ 助詞 | コ 助動詞 |

問六 傍線部2「かたちありさま見るに」は誰が誰の「かたちありさま」を見るのか、最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 御門が、中納言の「かたちありさま」を見る。

イ 御門が、人々の「かたちありさま」を見る。

ウ 中納言が、御門の「かたちありさま」を見る。

エ 中納言が、人々の「かたちありさま」を見る。

オ 人々が、御門の「かたちありさま」を見る。

カ 人々が、中納言の「かたちありさま」を見る。

問七 傍線部3「われはと思ふ人々ぞ、かくておはするほどだにも、見え知られたてまつらばや」の解釈として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 私こそはと思う人々が「御門が元気でいらっしやる間だけでも、中納言に注目され、お見知りおきいただきたい」

イ 私こそはと思う男たちが「自分たちが唐にいられる間だけでも、御門に注目され、お見知りおきいただきたい」

ウ 私こそはと思う女たちが「中納言が唐にいらっしやる間だけでも、彼に注目され、お見知りおきいただきたい」

エ 私こそはと思う従者たちが「中納言が唐にいらっしやる間だけでも、御門に注目され、お見知りおきいただきたい」

オ 私こそはと思う遠き国の人々が「御門がいらっしやる間だけでも、御門に注目され、お見知りおきいただきたい」

問八 『浜松中納言物語』は菅原孝標女の作とされるが、つぎの中から菅原孝標女の作品を一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 蜻蛉日記

イ 更級日記

ウ 土佐日記

エ 栄花物語

オ 落窪物語

カ とりかへばや物語